

学校だより

《学校評価》特集号



令和6年3月22日

小野市立小野特別支援学校

令和5年度も、教職員・保護者によるアンケート、学校評議員等による関係者評価等を実施いたしました。そして、以下のように結果を分析し、まとめましたので、皆様にお知らせいたします。皆様からいただいた貴重なご意見は、令和6年度の学校経営や新たな教育実践等に生かしていきますので、なお一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

……☆令和5年度 学校評価に関するアンケート結果の分析……

回答数:教職員 27、保護者 38

<A:よくできている B:おおむねできている C:あまりできていない D:できていない>

1、学校運営に関すること

(1)教育的ニーズに応じた教育活動の推進 (人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	個別の支援、指導計画をもとに個々に応じた教育活動が行われている。	16	10	1	0	
保護者	学校では、個々の子どもの能力や障害に応じた教育活動が行われている。	33	5	0	0	

・9年間を見通した教育活動が定着している。個別の支援・指導計画に添った教育活動を軸に、児童生徒の成果や課題を保護者と共有し連携している。
 ・教職員が学校教育目標を柱に「ねらい」を持った授業や行事等の教育活動を進められている。
 ・職員間での情報共有や連携を重視するなど、定期的に学級内や学部内等で子どもの実態や指導の方向性を話し合うことを進めている。子どもたちの個々に合わせたきめ細かな指導ができるよう配慮した取組を進めている。

(2)教育方針や教育活動等の啓発 (人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	学校新聞やホームページ・学級通信等で情報発信、連絡帳等で情報共有を積極的に行っている。	20	7	0	0	
保護者	学校は、学校新聞やホームページ、学級通信等で情報発信、連絡帳等で情報共有を積極的に行っている。	30	8	0	0	

・学校ホームページの更新や学級通信などで、最新の情報を保護者等に提供することに努めている。
 ・児童生徒の連絡帳や家庭への電話連等で学校での様子を具体的に伝え保護者と共に教育活動に取り組んでいる。
 ・学校通信で本校の教育活動を地域へ発信することができた。継続し教育活動の啓発に努めている。
 ・新たに学校安全(SPS)通信を発行し、学校安全の取り組みについての理解啓発を図っている。

(3)安全安心への取り組み (人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	安全点検を計画的に実施、安全管理、危機管理体制がとれている。	12	15	0	0	
保護者	学校は、安全面、危機管理面におけるの管理と指導をしっかりと行っている。	30	8	0	0	

・セーフティプロモーションスクール(SPS)認証を受け、危機管理体制の更なる強化を進めている。計画的に訓練等を行い組織的な危機対応ができるように取り組んでいる。本校の実態に応じた学校安全の形を試行錯誤しながら構築している。
 ・児童生徒の安全意識を高めるため、危険防止・危険予測・危険回避能力など安全教育の取組をさらに進めていく。
 ・校舎等の老朽化に伴い、安全点検等を計画的に設定し教職員も修理等の改修を行っている。危機管理面での教職員の動きや保護者との連携など、児童生徒への安全面での配慮事項など組織的に確認に努めている。

(4)環境整備の取り組み (人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	校舎内外の美化と環境整備に努めている。	7	16	4	0	
保護者	学校は、校舎内外の美化や環境整備に努めている。	30	7	1	0	

・これまでも親子で大掃除等保護者会と連携し校舎内外の環境美化に努めてきた。
 ・校舎等の老朽化に伴う環境整備は、関係部局と連携し計画的に改修を進め組織的に対応に努めている。
 ・消火用ポンプの交換工事を行うなど、防災関連設備の更新を行った。
 ・校内の安全チームを中心とした警備防災計画の推進を進め、より実効性のある体制づくりを目指している。

2、児童生徒の指導(学習・生活について)

(1)子どもへの理解と関わり

(人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	児童生徒が楽しく学校生活が送れるように、児童生徒理解に努めている。	16	10	1	0	
保護者	学校の教職員は、熱意を持って子どもに関わろうと努めている。	34	4	0	0	

・教職員間や学部会等で、児童生徒の生活面や学習面の実態把握を行い成果や課題の情報共有を基に支援体制を充実させることに努めたことで、児童生徒へのきめ細やかな指導を行う支援体制ができている。
 ・医療、療育、アフター等の関係機関と連携を積極的に増やすことで、児童生徒や保護者等への支援体制の強化に繋がっている。
 ・「学びタイム」により学習習慣が定着している。教科学習でも、生徒の実態に合わせた内容を計画的に進めている。

(2)子どもへの指導、保護者への対応

(人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	児童や保護者の悩みや相談にきちんと対応し、児童生徒個々に応じた生活指導ができている。	17	10	0	0	
保護者	学校は、子どもや保護者の悩みや相談に適切に対応している。	32	6	0	0	

・教職員間で児童生徒や保護者の方に、より丁寧に対応することに努めている。
 ・より丁寧に引継ぎをし、継続した支援を行うことで、9年間を通した成長を感じられる指導体制の構築を目指す。
 ・保護者への対応は、連絡帳や電話連絡などこまめに情報を共有することに努めている。

(3)個に応じた教育活動

(人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	個別の指導計画は、保護者との協議を踏まえて作成し、学習内容と達成度をわかりやすく書いている。	15	12	0	0	
保護者	個別の指導計画は、保護者との協議を踏まえて作成され、学習内容と子どもの達成度がわかりやすく書かれている。	34	4	0	0	

・学びタイムで学習習慣が定着し学習への意欲が高まり、社会参画の基盤づくりに繋がっている。
 ・生活単元学習など、児童生徒が主体となって行事を計画し実行することで、自らの意見を発信する力と相手の言葉を受け止める力が身についてきた。
 ・計画的に、小学部と中学部の連携を行うことで、児童生徒の自尊感情を高揚させ主体性を育む機会となった。

(4)分かる授業

(人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	指導方法の工夫や授業改善等に積極的に取り組み、授業力向上につながっている。	14	12	1	0	
保護者	学校は、授業形態等を工夫し、分かって動ける授業づくりに取り組んでいる。	31	7	0	0	

・分かる授業と社会参画を目指した教育課程を編成した。修学旅行等での電車等の公共の交通機関の乗車体験と国語や算数の教科学習が繋がるよう意図的に学習を整合させた。
 ・児童生徒にとって実生活に活かす知識と体験の双方が充実した授業づくりになった。
 ・児童生徒の実態に応じた授業を展開するために、学習へのアプローチの方法や練習から実践、振り返りまでを計画的に進めるなど、PDCAサイクルに基づいた授業実践に取り組んでいる。

(5)ICT教育の効果

(人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	ICT機器(タブレットPC等)や教材教具の工夫を通して、学習内容の理解に役立っている。	7	18	2	0	
保護者	学校は、子どもの意欲を引き出すように、ICT機器(タブレットPC等)や教材教具の工夫を通して、学習内容の理解に役立っている。	32	6	0	0	

・ICT機器(タブレット)を使いながら朝の会や終わりの会の司会など、主体的な活動ができている。
 ・発達段階に応じた計算や書取機能の学習アプリケーションを使用するなど、ICT機器を活用した個別最適化の学びにつながるよう取り組んでいる。
 ・ICT機器の利用リテラシー面は定着してきているが、学習活動以外の利用についての課題が残る。

(6)健康教育の推進

(人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	児童の健康管理や健康保持、体力向上に努めている。	14	12	1	0	
保護者	学校は、子どもの健康管理や健康の保持増進や体力づくりに積極的に取り組んでいる。	32	6	0	0	
<p>・健康管理や健康保持のためには、身体面や体力づくり面に主眼をおいた身体測定を定期的の実施することで、児童生徒の発達や成長段階を考慮した年間計画を立てた。</p> <p>・体育的活動を効果的に実施することで、昨年度より比較し児童生徒の活動量が増加し心身バランスや体力面での充実感が増してきた。</p> <p>・小学部中学部と連携したネチケット教育・性教育・保健・安全教育を9年間系統的に継続していく。</p>						

(7)思いやりや助け合う心の育成

(人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	教育活動全般を通じて人権教育に取り組み、自尊感情や道徳心をはぐくんでいる。	12	14	1	0	
保護者	学校では、友だちとの関わりの中で思いやりや助け合う心を育てている。	27	10	0	0	1
<p>・自尊感情や自己肯定感を高める活動として「ふれあいフェスティバル」等でのオペレッタ等の表現活動の一つの軸とした教育活動として取り組んだ。オペレッタ上演の本番まで練習を重ねたことで、児童生徒は、活き活きと表現活動を行うと同時に友人関係の構築や社会性を高めるなど、「自信」を持つことや道徳心を培うことに努めた。</p> <p>・エピソード記述の手法を用いることで、児童生徒の内面の実態把握に努めた。検討会を通じて、児童生徒の行動の裏にある心の動きを考え、実態に応じた支援を行う事につながっている。児童生徒の思いやりや助け合う心の醸成につながった。</p>						

3、学校行事

(1)学校行事の精選、効果

(人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	学校行事は必要最小限に精選され、効果的に実施できている。	5	10	9	3	
保護者	学校は、子どもの興味関心を踏まえた学校行事や学部行事を行っており、様々な体験ができるように工夫している。	32	6	0	0	
<p>・児童生徒には、行事の成果として仲間と共に行動するプロセスから、児童生徒の主体性や協働性が培われた。</p> <p>・9年間の成長を見通し、発達段階に応じた行事や生活単元学習などをバランスよく計画していく必要がある。</p> <p>・活躍できる機会を増やすため計画段階から十分に話し合い、子どもたちがゆとりを持って活動ができるよう留意し取り組みを進めている。このことが、児童生徒の「自信」に繋がり、行事を重ねる度に、子どもたちの成長を感じることができた。</p>						

(2)オープンスクール、参観日の実施

(人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	参観日、オープンスクールの運営は、工夫して効果的に実施できている。	13	12	2	0	
保護者	学校は、オープンスクールを工夫して効果的に実施している。	28	8	0	0	1
<p>・参観日の実施にあたり、保護者からは「せつかなので参観時間を長くしてほしい」という意見もあったが、「授業の参観はしたいけれど講習会や訓練等が大半で長時間とられている」などの意見もある。</p> <p>・学習参観、ふれあいフェスティバル等できるだけ多く学校等で参観していただく機会を設けられることで、児童生徒の主体性や自己有用感の向上に繋がった。さらには、保護者の励まし等で、児童生徒個々の自信が持てる機会となっている。</p>						

4、交流・連携について

(1)交流教育の推進

(人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	居住地校、近隣校との交流及共同学習が計画的に実施できている。	14	12	1	0	
保護者	学校は、居住地校や近隣校との交流を可能な限り行っている。	31	7	0	0	
<p>・副籍制度のもと、児童生徒が豊かな人間性を育てていくことを目指し、通常学級と特別支援学級両方での交流校に赴き同年代の子どもや異年齢の子どもと交流を実施している。子どもたちにとって互いが関わり社会性を向上させる良い機会となっている。</p> <p>・個別の支援・指導計画に沿って、時期や回数、内容等、情報共有し交流の機会を設定することで徐々に交流範囲を広げている。</p> <p>・児童生徒の発達段階等を考慮し計画的に交流教育を進める。</p>						

(2)学校と家庭、地域及び関係機関との連携

(人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	学校と家庭や地域・福祉・施設、関係機関と連携した教育活動が効果的に実施できている。	13	12	2	0	
保護者	学校は、家庭や地域・関係機関と連携した教育活動を効果的に実施している。	26	11	0	0	1

・職場体験活動やトライやるを通して、将来の仕事に就くことを意識した職場体験実習や保護者と共に福祉施設の見学など地域での活動に参加できた。キャリア教育の観点においても地域活動に大きく貢献できると願っている。
 ・放課後等デイサービス事業所との連携は重要と考え、連絡帳の相互閲覧や長期休業中等に事業所等を教員が巡回することで、事業所等での児童生徒の様子や実態を知ることができた。学校・家庭・福祉事業所との連携に継続して取り組むことができた。

☆保護者からの意見☆

○いつも色々な学習に楽しく接しているので楽しく学校に行っているのでも感謝しています。
 ○将来の仕事に向けて親子職場実習体験を計画していただいていることがとてもよい経験になっていると思います。その中でわからないことを尋ねたり、何かを伝えたりするコミュニケーション能力を培っていただいているのが有難いです。
 ○一人一人の個性を大事にしてくれるので、親としても安心して学校に行かせることができます。
 ○連絡アプリ等を使ってスピーディーなやりとりが出来れば良いと思います。
 ○授業参観日に他のことを盛り込み、授業の参観はしたいけれど講習会や訓練等が大半で長時間とられています。
 ○コロナ前は親参加の行事があったが今はなくなっている。クリスマス会や送る会など、せめて最終学年卒業生の親くらは参加してもいいのではないかと思います。
 ○調理実習、うどん作り体験等、コロナ前のように出来たらいいと思います。
 ○本人に合わせてプログラムを組んでくださっていて出来るが増えてきていて感謝しています。
 ○一人ひとりに寄り添ってくださる姿勢がありがたいです。



☆学校関係者からの意見☆

1、学校運営について 評価 A

○保護者会の評価より教職員の評価の方が厳しくなっていることが安心できる学校であると思います。
 ○全般的に取組みに対して、結果、成果をまとめられた(分析)上で、課題を明確にされていることが良いと思います。
 ○教室内外問わず、危険回避のために整備と整頓が大切だと思う。また、身のまわりがすっきりしていることの心地良さを体感することは、将来の生活につながると思う。
 ○生徒一人一人の障害特性に応じた支援指導が的確に行われており職員間の情報共有や密なる連携ができていると思います。
 ○特別支援学校(知的)としては、全国で初めてのSPSの認証を受けるなど安心安全への取組みが組織的にできており、まさに小野特スタイルが構築されてきたと思います。
 ○不審者対応訓練や緊急時対応訓練など、起こると咄嗟に対応に困ることを普段から訓練されていることで、安全に対する意識が高められていると思います。家にいるとなかなか気がつかないので、保護者を巻き込んで取り組んでほしいです。

2、児童生徒の指導について 評価 A

○エピソード記述をより充実したものにしていき、生徒さんの個性に応じた対応につなげていただければと思います。
 ○たくさんの体験学習を組み込まれているのを聞きとてもいいと思った。(子ども達)いろいろな体験をすることで、新しい実態を知り、その子の特性を見つけ、その後の学習に活かせるように思う。
 ○9年間を通し、生徒や保護者との情報共有や職員間での情報共有を行う事で、職員間での丁寧な引継ぎや継続した支援ができ充実した指導体制が構築されてきている。
 ○エピソード記述など生徒の気持ちに寄添って気持ちをくみ取ろうと工夫されていると思います。
 ○中学部のペア作業、相手を待つ、相手のペースに配慮しながらの作業、難しいこともあると思いますが、(児童生徒の)将来に役立つと思うので続けてほしいです。

3、学校行事について 評価 A

○保護者からの意見を見ると「困っています」という意見もあるようですが、主体は生徒、学校にあると思っていますので、今のままでいいと思います。
 ○学校行事の集大成であるオペレッタの成功をみても分かるように、子ども達の「やればできる」という自信に繋がっていると思います。
 ○コロナが明けて、もちつき大会をされたり、修学旅行、ボーリング大会など(コロナ禍)以前と同じようにできるようになったので、どんどんと外へ出て行ったり、学校でしかできないことをしてほしいと思います。
 ○スモールステップで伸ばしていく。オペレッタは、本当に見るのが楽しみで力いっぱい演じているのに感動します。

4、交流・連携について 評価 B

○保護者の交流・・・現役保護者と卒業生保護者との交流も企画されればどうでしょうか？みなさん、やはり将来の不安を持っているでしょうから。自分たちの5年先や10年先を歩んでいる卒業生保護者にきいてみたいこともたくさんあるのではないのでしょうか。
 ○地元的生活圏の中でもっと交流ができたら良いのだが、保護者の負担も考えると・・・近隣校、居住地校交流は、お互いが高め合える絶好の場だと思う。
 ○豊かな人間性を育む事を目的として、居住地校や近隣校との交流共同学習が計画的にできている。また、職場体験実習やトライやるに参加することで地域社会に大きく貢献していると思います。
 ○3市特や地域の学校との交流を続けてほしいです。近所の子どもへの認知は大切だと思います。何か知らないけど見たことのない子が近所にいるより、よく知らないけど見たことはある子が近所にいるの方が理解はあると思います。